

テーマ「**教会の基礎とその上に形成される牧師と信徒による教会生活の建設**」

参考：日本伝道会議の発表（2017年）～「2025年問題とキリスト教」～日本の教会は超高齢化社会の中で<信徒、教会、教会学校生徒、受洗者、牧師>等が減少傾向。

- ・K教会の「開拓100年史」を読んだ杉田教会の衝撃

1 牧師と信徒による教会の存在

- (1) **牧師の存在**～「彼はある人を伝道者、牧師、教師としてお立てになった」(11)
 - ・牧師は神が立てられたからであるが、教会の祝福に大きく左右する存在。
- (2) **牧師の働き**～「聖徒達を整えて奉仕の業をさせ」(12)
 - ・「整える」＝「網を繕う、固定する、回復する、装備する」の意味
 - ・牧師は信徒の破れを繕い、回復させ、信仰の装備をする。
- (3) **信徒の存在**～「キリストの体を建てさせ」(12)
 - ・信徒とは「キリストの体」である教会の「器官」(1コリ12:27)であり、また「キリストの体」である教会の「建築材料」である(エペソ4:12、16)。
- (4) **牧師と信徒**～「キリストを基として組み合わされ、結び合わされ」(16)
 - ・牧師と信徒は結束して教会を形成する(建て上げる)存在である。
 - ・教会の一致～「二人が・・・心を合わせる」＝「交響楽(団)」(マタイ18:19)

II 牧師と信徒による教会形成

- (1) **牧師の仕事**～「私達は・・・祈りと御言葉の御用に当たることにしよう」(使徒6:4)
 - ・牧師は執事を選任し、「祈りと説教と牧会と伝道」をする者
 - (2) **牧師と信徒による教会形成**
 - i 信徒が少ない教会では牧師が全てを行うが、信徒の増加と教会の成長に合わせて、実務の働きを徐々に信徒に移譲する～他教団から来た或る信徒の意見
 - ii 牧師は常に全体を見て、偏らない用い方が必要。iii 教会内の全て責任は牧師が負う。
 - iv 教会は神と信徒のものである事を教える。～匿名の手紙～“**神は御存知**” (私の信条)
 - v 役員を育て役員会を重視する(役員の半数が反対したらそれに従う(つもり))。
 - (3) **牧師への信頼度チェック**
 - i 牧師の欠点を承知で信頼しているか
 - ii 前任牧師と比較して批判していないか
 - iii “先生に内密に“とっていないか。言われたらどうするか
 - iv 牧師の守秘義務を認めているか(刑法134条)
 - v “牧師よりも神に従う“とっていないか
 - vi 牧師と率直に話せるか
 - vii 牧師を家族や上司に紹介出来るか
 - viii 牧師への経済的処遇を知っているか
 - ix 牧師の祝福と健康を毎日祈っているか
- * 「牧師は神の御旨に従って教会の目標を立て、会員と目標を共有し、達成のために会員を整える指導者の事である。(ピーター・ワグナー)

- * 「健康な教会には牧師を尊敬し信頼している信徒がいる。そして信徒を愛し重んじ、大切にしている牧師がいる」（リック・ウオレン）
- * ニッパー宣教師の助言～カリフォルニア教区の千人教会の共通点
 - (1)信徒達の自主的奉任意識が高い (2)信徒同士仲が良い (3)牧師の裁量権が大きい

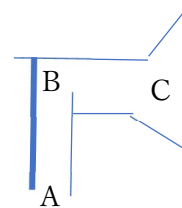
Ⅲ 神が喜ばれる教会生活

信徒の基本的な教会生活（自己点検と伝道）

- (1) 日曜礼拝会と祈禱会の出席～年間52回を目標に掲げる～・祈禱会の重視
 - ・祈禱会の重視 ～早朝礼拝会～或る献身的な信徒の奉仕
- (2) 聖書拝読と祈禱の習慣～聖書は毎日読み、祈禱は時間・場所・題目を定める。～中断するのを恐れず、また始めればよい。
- (3) 奉仕への参加～オンヌリ教会のトイレ掃除の青年 ある教会の高齢信徒の告白
- (4) 月定献金の実践～什一に向かって徐々に近づける～無駄な浪費はないか？
- (5) 伝道～“私達が救われたのは救うため。自分だけ天国に逃げ込むな”（崔子実）

神が喜ばれる教会生活

- ・全ての信仰行為は聖霊の力によってのみ可能である。（1コリント12：3）
- ・聖霊の働く方法～(1)弱さの自覚 (2)祈る (3)踏み出す (4)挫折→再開→挫折→再開
- ・三浦雄一郎のエベレスト登頂～“無理はしません。でも無理をするんです”
- ・初めからあきらめずにやれるところまで行く時、そこから道が開けていく。～落としたコンタクトレンズ探し
- ・Aで止まると行き止まりのBしか見えない。
Bまで行くとCが開けてくる。



若者（信徒子弟）の育成

- ・次世代の若者、特に信徒子弟をいかに信仰に導き育成するかは今後の教会の最大の課題である。
- ・杉田教会も他教会と同様 (i) 子供たちを教会学校やセルに出席させている。(幼児は親と礼拝会に) (ii) 教区青年キャンプ参加 (iii) 副牧師が“ラーメン会”とか“風呂巡り会”とか称して連れ出して交わりをしている。
- ・信徒子弟の場合は、親と共に教会に来ている間に、しっかり信仰教育を施して、救いに導くことが肝要である。杉田教会では本人が希望すれば親と話し合っ、少々早く洗礼を施している。中高生になると勉学や部活があるので緩やかにし、日曜日の夕方に牧師や教師が1対1で礼拝の時を持っている。
- ・一旦信仰を持った子弟はたとえ離れても必ず戻ってくるという信仰が大切である。
- (献身者の育成～省いてもよい)
- ・救霊の推進のためには全ての信徒が伝道者であることが望ましいが、専門的な知識と訓練を積んだ伝道者が必要である。杉田教会からは今まで寝屋川教会の牧師から杉田教会の副牧師まで7人の牧師が輩出され、2名が神学生である。献身の志願者に対しては本人の召命観と資質を重視し、何人かは推薦せず「教会献身者」になる指導を

している。現段階で牧師職をリタイヤした者はいないが、推薦しなかったため去った者はいた。 献身者を出すことは教会にとっては有能な信徒が出て行くことになり、奉仕が欠ける痛手をこうむるので、牧師は出たくない心理になるが、神の御旨を思い、献身を決意して牧師の道に歩み出そうとしている者のために、教会は経済的援助を含めて全面的にバックアップすべきである。

終わりに

教会は夫々置かれている地域の特性を重視しその中で教会形成をしています。牧師もまたそれぞれ個性を持ち、神の賜物を与えられて信徒達と共に文字通り「一つになって」(交響楽団)、指揮者であるキリストの元に伝道・牧会に励み、労しています。更に励んでいきましょう。